

2018. 9. 30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

☆メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成30年10月2日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《9月のおはなし会で使った本》

『くもくもくもく』（紙芝居）堀川真/脚本・絵 童心社 2013

『ぼくのおべんとう』 スギヤマカナヨ/さく アリス館 2003

『わたしのおべんとう』 スギヤマカナヨ/さく アリス館 2003

『おつきさまこんばんは』 林明子/さく 福音館書店 2000

★秋のスペシャルおはなし会

○日時：平成30年11月3日（土・祝）11：00～11：50 ○会場：山口県立山口図書館 第1研修室

○対象：幼児・小学生とその保護者 ○実演：お話の出前 ジョイントネット萩「草の芽」のみなさん

○内容：影絵「じごくのそうべえ」他 ○定員：30名程度（要申込み・先着順 保護者人数は除く）

○申込方法：11月1日（木）までに、カウンター、電話、FAX、Eメールで申込み

★第2回子どもと本をつなぐスキルアップ講座

○日時：平成30年11月10日（土）13：30～15：30

○演題：「わらべうたあそびでコミュニケーションを」～乳幼児から小学低学年まで～

○講師：加藤 ときえ氏（わらべっ子の集い代表） ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：子ども読書ボランティア、公共図書館職員、幼稚園教諭、保育士、学校図書館関係者等

○定員：各回60名（要申込み・先着順） ○参加費：無料

○申込方法：11月2日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

★第2回学校図書館セミナー

○日時：平成30年11月20日（火）13：30～16：00 ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○講師：高見 京子氏（全国SLA学校図書館スーパーバイザー）

○内容：「YA(ヤングアダルト)世代と本をつなぐ図書館活動のアイデア」～ビブリオバトルも体験しよう～

○対象：県内の教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館担当事務職員、市町教育委員会指導主事、学校図書館ボランティア、公共図書館職員等

○持参物：面白いと自分が思う本1冊 ○定員：60名（要申込み・先着順）

○申込方法：11月6日（火）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『ぎゅぎゅぎゅー』 駒形克己/作・絵 KADOKAWA 2018.8 ¥980

ぷちっ、びゅうーん、ぱちーんなどの擬音語といっしょに、赤い丸がはじけたり、オレンジや黄色、緑、青色の丸が、一列にくっついたり、重なったり。白地を背景にしたカラフルな色使いが美しい。赤ちゃんの小さな指が入れられる、丸い穴があいたしかけつきのボードブック。『ごぶごぶ ごぼごぼ』（福音館書店）の作者による赤ちゃん絵本。

<絵本-3, 4歳から>

『行ったり来たり大通り』 五味太郎/作 絵本館 2018.7 ¥1400

バスを待っている人、銀行を探している人、花壇の手入れをしている人…。「あつりボンおとした！」リボンはどこにあるのかな？ マラソンランナーが「折り返しまだ？」折り返しはどこにあるのかな？見開きいっぱい細かく描かれた大通りを舞台に、沢山の人の色々なエピソードが繰りひろげられる。ページをめくって行ったり来たりしながら楽しむ絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『すいかのプール』 アンニョン・タル/作 斎藤真理子/訳 岩波書店 2018.7 ¥1700

夏がきて、大きなすいかがぱかっと割れたら、今年もすいかのプールのプール開き。子供たちは浮き輪を持って、赤い実のプールに飛び込んだ。おじいさんやおばあさんたちも一緒に、すいかのプールを楽しもう。葉っぱのジャンプ台から飛びこんだり、すいかの皮のすべり台をすべったりと、みんなとってもいっい笑顔。子どもの楽しい空想をいきいきと描いた韓国の絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『ザトウクジラ』 ヨハンナ・ジョンストン/作 レナード・ワイスガード/絵 こみやゆう/訳 好学社 2018.6 ¥1600

私たち人間と同じ哺乳類でありながら、人間の暮らしとは程遠い存在の鯨。鯨は一体、どこで、どのように暮らしているのだろうか。ザトウクジラの生活を追いかけてみると、赤道付近のあたたかい海で遊んだり、パートナーを探したり、北極や南極へ餌を求めて何

千キロという旅に出かけたり…。広大な海で逞しく生きるザトウクジラの暮らしを、黒と緑の美しい版画絵で紹介した科学絵本。

『わたしの森に』 アーサー・ピナード/文 田島征三/絵 くもん出版 2018.8 ¥1400

雪がしんしんふり積もる森の中で、わたしはずっと眠っている。春が近づくと、雪の下の穴のなかで、わたしのからだは動き出す。むんむんむん、わたしには熱を感知する「むんむんの目」がある。だから、暗闇の中でもノネズミなどのあったかい生き物の体が見える。里山の嫌われものマムシの目から見た世界と生命の営みを、詩人の美しい言葉と力強い絵で描いた絵本。

<絵本—小学校中学年から>

『オレはどうくつ探検家』 吉田勝次/著 ポプラ社 2018.7 ¥1500

洞窟は、地球が何億年もかけてつくった彫刻のような芸術作品だ。水の中をもぐったり、泥まみれになって狭い通路を這ったりして進むのは大変だ。でも、息をのむほど美しい神秘的な地底空間に出会えるから、洞窟探検はやめられない。洞窟探検に魅せられて、国内外の1,000以上もの洞窟にもぐり、写真撮影に組み込まれた洞窟探検家による写真絵本。

<読み物—低学年から>

『ふたりはとっても本が好き!』 如月かずさ/作 いちかわなつこ/絵 小峰書店 2018.7 ¥1100

本が大好きで、図書館で借りた10冊の本をすぐに読んでしまう、せっかちなチーターのチッタちゃん。本は大好きだけど、じっくりゆっくり読んで、返却期限までになかなか読み終わらない、のんびりやのカバのヒポくん。図書館で夏休みの感想文の宿題の本を選んだ二人は、お互いの感想文を見せ合いっこする約束をした。読書を通して友情を深める物語。

<読み物—中学年から>

『子ガモのボタン』 ヘレン・ピーターズ/文 エリー・スノードン/絵 もりうちすみこ/訳 さ・え・ら書房 2018.7 ¥1400

ジャスミンと親友のトムは、将来動物救急センターをつくりたいと考えているほどの動物好き。そんな二人は、親ガモを殺されて温めることができなくなったカモの卵を見つけ、ふ卵器でかえすことに成功。ひなをボタンと名づけ、懸命に世話を続けた。ある日、納屋から煙が上がり、ガーガーと悲鳴のようなボタンの声が聞こえてきて…。農場を舞台に描く、子どもと子ガモの物語。

<読み物—高学年から>

『マンザナの風にのせて』 ロイス・セパーン/作 若林千鶴/訳 ひたかのり子/絵 文研出版 2018.6 ¥1500

アメリカマンザナの強制収容所に行くことになった日系人のマナミは、内緒で飼っていた犬のトモをコートに隠し車に乗った。途中で兵士に見つかり、トモを置いて行くことに。悲しみのあまり、マナミは一切声を発することができなくなってしまった。夏の気温は40℃を超え、冬は氷点下になる厳しい気候のマンザナで、家族や周りの人々と支え合い、希望を見出し生きていく力強い物語。

<読み物—中学生から>

『ぼくたちのP(パラダイス)』 にしがきようこ/作 小学館 2018.7 ¥1400

夏休みの1週間をおじの別荘で過ごすことになった中2のぼく。ところが何時間も登山道を登り、たどり着いたのは電気も通っていない山小屋。雷を怖がる苛められっ子のぼくが、湿原を守る活動をする大学生たちと汗を流すうちに…。森林限界を超えた標高1700mの大自然とその美しさを守ろうとする大学生たちの中で、少しずつ自分らしさを取り戻し、大きく成長していく少年の物語。

『ぼくがスカートをはく日』 エイミ・ポロンスキー/著 西田佳子/訳 学研プラス 2018.8 ¥1500

4歳のとき両親を自動車事故で亡くし、おじの家でいとこたちと育ったぼく。「本物の女の子になりたい」という強い願いを抱え込んでいるぼくは、いつもひとりぼっち。ところが学校で開催される演劇のオーディションで女神役を志願し…。自分らしく生きる道を模索するトランスジェンダーの少年の姿を描く。2016年の全米図書館協会「レインボー・ブック・リスト」に選ばれた作品。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『くまモン 地域振興と災害復興にかけまわる次世代のリーダー』 森真理/まんが 三条和都/ストーリー 熊本県くまモングループ/監修 小学館 2018.8 ¥950

2011年の九州新幹線開業に合わせ、熊本県のPRのために誕生し、日本一有名なご当地キャラになったくまモン。くまモンのイラスト著作権は熊本県が買い取り、使用料を無料にしたことで、多くの企業がくまモンを使用し大人気。一方、東北大震災後には、募金や東北訪問で人々を元気づけ、熊本地震後は、復興の旗振り役として奮闘中。人々を支えるくまモンの活躍を紹介する1冊。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『高木菜那・美帆 ともに頂点へ』 林直史/著 汐文社 2018.7 ¥1600

小さい頃から天才と注目を浴び、活躍することが当たり前だった妹の美帆。なんでも後から始めた妹がいつも追い越され、悔しい思いをしてばかりだった姉の菜那。現在は、お互い刺激し合い、自分がない部分を認められる、身近で最高のライバルとなった姉妹の、幼いころから平昌冬季オリンピックでメダル獲得の快挙までの人生を描く。「冬のアスリートたち」シリーズ。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『わたしたちの地球環境と天然資源 ③土』 本間慎/監修 新日本出版社 2018.7 ¥3000

自然が作り出した資源であり、地球の表層を覆っている土。土によって豊かな生態系が発達し、人類は豊かな生活と文化を生み出してきた。しかし今、土に異変が。土の働きや生き物との関係、豊かな土が劣化してきている現状を解説。地球の貴重な資源をテーマにして、それぞれの問題を掘り下げる、環境学習に役立つシリーズ。他に水、森、空気、光、熱の全6巻。

<ノンフィクション—中学生から>

『学校に行きたくない君へ 大先輩たちが語る生き方のヒント。』 全国不登校新聞社/編 ポプラ社 2018.8 ¥1400

不登校やひきこもりの若者たちが、自分が関心を持っている有名人に、本当に聞きたいことを体当たりインタビュー。樹木希林、高山みなみ、羽生喜治、辻村深月、萩尾望都などが彼らの問いに真摯に答える。20年続いている当事者参加型の『不登校新聞』掲載のインタビューから20人分を厳選、加筆修正し、書き下ろしを加える。取材の裏話や、不登校経験者のコラムも掲載。

<研究書>

『お話とともに育つ喜び おはなし通信』 下澤いづみ/著 風媒社 2018.6 ¥2500

図書館ボランティアとしてストーリーテリングに取り組んできた著者による、12年間の実践記録。著者が2005年から毎月発行してきた「おはなし通信」全150号を掲載。「簡潔に」「ゆっくり」「誠実に」という3章にまとめられた内容は、東京子ども図書館の松岡享子氏を師と仰ぐ、著者の生き方そのものであり、子どもと本に関心のあるすべての人に役立つ。お話リスト付き。